

# 筑豊鉱業主麻生太吉の福岡市との係わりについて——明治末・大正期における地方資産家の新たな地域での活動実態に関する事例研究——

2013年7月27日

地域史料研究会・福岡第10回懇話会

新鞍拓生

## 1 はじめに

### 地方資産家に関する研究

- ・経営構造や経営発展そのものの解明（森川〔1985〕）
- ・地域経済の発展過程との関連、資産家をめぐる政治的、社会的諸要素への配慮（谷本〔1998〕、鈴木・小早川・和田〔2009〕、中村〔2010〕など）
- ・地方資産家そのものの考察への手がかり（谷本〔1998〕）

谷本氏の所説；地域と資産家との関係（経済的・社会的・政治的活動）、ただしそれは企業勃興期に限定

今回対象とする明治末から大正期；経済過程の変容した時期

- ・鉄道の国有化、株式市場の発展、電力経済圏の成立、地域経済の停滞、レントナー化
- ・地方資産家に関する研究（麻生と同じ筑豊鉱業主である安川敬一郎（有馬編〔2009〕）、北海道函館の小熊幸一郎（白鳥〔2013〕）
- ・経済人に関するものとして財界の研究（松浦〔2002〕）

### 本報告の目的

- ・福岡市域における麻生太吉の諸活動の解明、新たな地域である福岡市域、政治的活動と社会的活動に着目

### 麻生太吉（1857～1933年）に関する研究

- ・明治30年に炭鉱経営を軸とする個人経営組織の麻生商店を設立
- ・明治30年代は三井財閥から資金を借り入れ経営（返済に苦慮）
- ・明治40年に借入金を返済して炭鉱業や電力業に投資、家族・同族の出資・経営に係わる嘉穂電灯設立、大正期後半以降は特に電力業で北部九州地方において企業者活動
- ・明治32年に衆議院議員補欠選挙で当選（1期）、明治44年から貴族院議員（2期）
- ・大正期の活動は筑豊地方、福岡市、それに大分県が中心（『麻生太吉日記』）
- ・大分県では九州水力電気（九水）役員として、および別府町で別荘を構えながら経済的活動を軸に諸活動を行う
- ・借入金返済後、明治41年頃に福岡市で別荘を構える

## 2 麻生太吉が活動した時期における福岡市の市勢

大正初期における福岡市の経済（史料1）

福岡市における工業生産の趨勢（表1）

経済発展し始めるのは明治末期以降（水内〔2001〕）

- ・明治43年に福岡市で開催が決定された九州沖縄八県連合共進会
- ・最初に整備が始まったのが市内の電気軌道（松永安左衛門・福沢桃介らが発起・設立した博多電灯軌道（博電）、渡辺与八郎らによる博多電気軌道（博軌）の設立）

電気軌道以外のインフラ、特に港湾や水道の整備は他の県内都市に比べ遅れる

### 3 麻生太吉の福岡市域における活動の端緒

#### (1) 経済的活動——市内電気軌道への関与（明治末年）——

渡辺与八郎からの株式所有の依頼（明治43年）

- ・麻生太吉の電気軌道に関する考え方（史料2）

博軌、博電の合併仲介（明治45年）（喜多・荻野〔2001〕）

- ・麻生は同一地方における複数の電力会社による競争の弊害を意識し合併を促進
- ・この過程で麻生は筑豊鉱業主（安川敬一郎、中野徳次郎、貝島太助、堀三太郎ら）と協動的に行動

九州水力電気取締役への就任（大正2年）

- ・中野徳次郎（九水取締役）による強請、和田豊治（同社相談役）と企業者活動
- ・松永安左衛門らの九州電灯鉄道との合併交渉
- ・電力業での活動を通じ筑豊鉱業主以外の人的関係が結ばれる

#### (2) 政治的活動——佐藤平太郎市長の更迭・後任選定問題（大正3年）——

- ・佐藤市長（任期明治38年9月—大正3年7月）の水道事業計画；20万人への供給計画（当時の福岡市および周辺地域の人口は11万人程度）、財源は国庫補助を念頭
- ・渡辺家（渡辺与八郎、渡辺綱三郎〔福岡市会議員、政友会系〕）による市長排斥
- ・市長提案の20万人案は明治45年7月に市会で可決
- ・大正2年4月の市会議員選挙での政友会系の勝利（定数36のうち21名）
- ・大正3年、福岡県土木課長小林新三郎による市長更迭問題の筑豊鉱業主（安川敬一郎、麻生太吉、中野徳次郎）への仲介依頼
- ・佐藤市長は3年6月に辞職願を提出、市会で後継市長候補の銓衡委員会
- ・和田豊治は候補者として井手佐三郎（福岡県出身者、水戸中等学校長など歴任、慶應義塾出）を推薦
- ・和田の九水による博軌合併を前提とする北九州での工業化構想（史料3）
- ・候補者選定が難航したため、市会銓衡委員会は安川敬一郎に打診
- ・麻生太吉も安川に依頼、麻生の持論＝「名誉市長」
- ・それに対し安川は固辞（史料4）、井手が市会で全会一致にて推薦を得、市長に就任
- ・麻生太吉による井手市長の就任祝賀宴での挨拶（史料5）

### 4 福岡市域の発展を見据えた経済的・政治的活動（大正3～7年）

#### (1) 経済的活動

##### ①産業発展への係わり（大正3～7年）

関与した会社（表2）；織物会社（大正3年）、筑前参宮鉄道（大正5年）、東洋製鉄（同年）、大分鉄道（大正6年）（表2、図1）

- ・織物会社は筑豊鉱業主の安川敬一郎・中野徳次郎、団琢磨（三井財閥、旧福岡藩士の家柄）、吉田芳太郎（博多織業者）と共同で企画
- ・筑前参宮鉄道は糟屋郡産出の石炭輸送を企図する福博の実業家太田清蔵・河内卯兵衛、筑豊鉱業主中野徳次郎らが中心（6000株発行、麻生は100株所有）
- ・大分鉄道は嘉穂郡方面を結ぶ筑豊炭の輸送、博多湾築港関係者を中心に設立される（喜多〔1987〕、表3）、麻生による大分鉄道引受事情（史料6）

- ・筑豊地方の鉱石採掘（九州産業）および運搬（嘉穂軽便鉄道）
- 博多湾築港整備、福岡市域における会社企業設立の機運と連動
- ・博多湾築港の設立運動（明治末年から大正初期）
  - ・官民一体の博多湾築港整備、それにもとづく工業化志向（『福岡市大観』）
- 麻生太吉の企業者活動；東洋製鉄
- ・和田豊治との関係で麻生は関与（60万株発行、麻生は3000株所有）、取締役
  - ・和田豊治における福岡市域での工業化志向（前掲史料3）
  - ・麻生は取締役、製鉄所立地に関する選定委員に就任し糟屋郡香椎村に誘致（当時気運が高まっていた博多湾築港整備と連動、地元の期待（史料7）を担う）

## ②経済的活動の終焉（大正7年）

東洋製鉄立地の福岡市域以外での決定（大正7年1月）

- ・製鉄所は福岡県遠賀郡戸畑町に、久原家と合併に決定（和田豊治、郷誠之助）
- ・和田における出身地大分県中津町での工業化志向（史料8）

安川敬一郎の引退（大正7年4月）、中野徳次郎の死去（同年6月）

大正11年に博多国技館、博多陶磁器会社の株式を持つも企業者活動なし

## (2) 政治的活動

### ①井手佐三郎市長排撃問題（大正5年）

- ・水道事業をめぐる事業の進捗が遅れる
- ・一部市民が福岡市政刷新会を設立（大正5年4月）し市長を攻撃、市民大会開催
- ・立憲同志会系の市会議員が市長辞職勧告を市会に提案（7月）→否決
- ・同志会系議員の議員辞職、補欠選挙では政友会系の勝利
- ・安川敬一郎は県知事などから調停を依頼される
- ・麻生による該問題の見立て（史料9）、一部では麻生・安川らの動きは「物好き」で福岡市に対し容喙したと誤解される
- ・党派的对立に明け暮れ利権に奔走する一部議員、麻生太吉の感想（「不徳義千万ノ遺片実ニ御愛想尽キ申候」）

### ②安川敬一郎の第13回総選挙における福岡市選挙区立候補問題（大正6年）

- ・有馬〔2009〕における大正4、6年総選挙での安川の活動
  - ・挙国一致を求める安川の政党に対する態度
  - ・第13回総選挙（大正6年）における中野正剛擁立への動き
  - ・麻生太吉、河内卯兵衛、太田清蔵それに福岡の有力者は安川を推薦
  - ・1月から3月まで安川擁立の動き、安川の固辞

## 5 おわりに

福岡市域での活動の端緒＝電力業関連

麻生太吉の福岡市域に対する考え＝将来的発展（井手市長就任の宴会における挨拶）

麻生太吉が諸活動を通じ協調的に活動した人物

- ・明治30年代から人的関係の続く筑豊鉱業主（安川敬一郎、中野徳次郎）
- ・新たな活動を行う電力業を通じた人物（松永安左衛門、和田豊治）
- ・福岡・博多で家業以外でも積極的に企業者活動を行う人物（迎〔2007〕（渡辺家、

河内卯兵衛、太田清蔵)

麻生太吉の活動は人的関係にもとづく

- ・人的関係や物理的に変化が生じる(安川の引退、中野の死去、東洋製鉄の工場誘致失敗)と政治的・経済的活動も変化(谷本氏の所説は企業勃興期に限定)

社会的活動(寄付)(表2)

- ・大正初期から麻生太吉が死去する昭和8年まで
- ・寄付のきっかけは人的関係(安川敬一郎)、公共心、および麻生太吉の個人的動機にもとづく(神仏に対する宗教心、家族)

### 【参考文献】

- 森川英正〔1985〕『地方財閥』日本経済新聞社
- 谷本雅之〔1998〕「日本における“地域工業化”と投資行動——企業勃興期：地方資産家の投資行動をめぐって——」『社会経済史学』第64巻第1号
- 松浦正孝〔2002〕『財界の政治経済史——井上準之助・郷誠之助・池田成彬の時代——』東京大学出版会
- 迎由理男・永江眞夫編著〔2007〕『近代福岡博多の企業者活動』九州大学出版会
- 鈴木恒夫・小早川洋一・和田一夫〔2009〕『企業家ネットワークの形成と展開——データベースからみた近代日本の地域経済——』名古屋大学出版会
- 有馬学編〔2009〕『近代日本の企業家と政治——安川敬一郎とその時代——』吉川弘文館
- 中村尚史〔2010〕『地方からの産業革命——日本における企業勃興の原動力——』名古屋大学出版会
- 白鳥圭志〔2013〕「両大戦間における地方資産家の事業活動の変化——北海道函館市小熊幸一郎『日記』の分析——」『地方金融史研究』第44号
- 福岡市大観編纂所編〔1918〕『九州の中心福岡市大観』同所
- 泉彦蔵〔1934〕『麻生太吉伝』麻生太吉伝刊行会
- 麻生太吉翁伝刊行会編〔1935〕『麻生太吉翁伝』麻生太吉翁伝刊行会
- 橋詰武生編〔1976〕『渡辺与八郎伝』渡辺与八郎伝刊行会
- 野田美鴻〔1992〕『杉山茂丸伝——もぐらの記録——』島津書房
- 有馬学「企業家の政治活動における〈国家〉と〈地方〉——安川敬一郎と大正前期の政界——」有馬編〔2009〕所収
- 喜多恵〔1987〕「大分鉄道の経営計画についての一考察——博多湾築港との関連にみる——」『福岡大学大学院論集』第19巻第1号
- 喜多恵・荻野喜弘〔2001〕「電気事業の発展と電力圏の形成」西日本文化協会編纂『福岡県史通史編近代産業経済(二)』所収、福岡県
- 水内俊雄「福岡県八市の都市開発と都市発展」西日本文化協会編〔2001〕所収
- 福岡市議会事務局編集〔1979〕『福岡市議会史』第2巻大正編、同会
- 北九州市立自然史・歴史博物館編・発行〔2011〕『安川敬一郎日記』第3巻
- 麻生太吉日記編纂委員会編〔2011〕『麻生太吉日記』第1巻、九州大学出版会
- 麻生太吉日記編纂委員会編〔2012〕『麻生太吉日記』第2巻、九州大学出版会
- 新鞍拓生〔2010〕『筑豊鉱業主麻生太吉の企業家史』裏山書房

## 【参考史料】

### 史料1 『福岡市大観』

「福岡地方に於いては日清戦後初めて電灯、瓦斯其他の会社勃興し爾来一消一長明治四十二年頃電気軌道、トロール業其他企業勃興時代を現出し其後又沈静に転じて整理淘汰盛んに行はれた、既にして欧洲戦乱の影響を受けて大正四年下半期より又々事業界の活気を呈し……」

### 史料2 麻生太吉発明治43年2月9、12日付渡辺与八郎宛発信原稿

「拝啓過日浜の町ニ於テ欠敬之段奉多謝候扱其節博多軌道倉庫株式会社發起出願ノ儀ハ大体ニ於テ御賛成申上候儀ニ候得共福博軌道会社ト合併相成候テハ如何哉ト存差控申候処該株非常ノ騰貴ニテ到底急ニ其運ヒモ六ヶ敷奉存候御出願ノ外有之間敷奉存候間發起株五百株御引受可仕ニ付右様御了知被成下度右午延引御通報申上候事也」

「拝啓益御清光奉敬賀候過日博多電鉄発起之義ニ付御示談之次第も有之候処右ハ大体ニ於テハ大ニ御賛成申上候も彼ノ福博電鉄合同御勸メ申上度的算ニテ該株主ニ合同策相試ミ申候得共到底協定ノ道ナキニ至リ申候發起株ハ五百株御引受可申上候右様御了知被成下度又海陸運輸業も御兼業如何其辺ハ御拂りも無之事ニ奉存候モ為念申上候先ハ以書中如此ニ候敬具」

### 史料3 『麻生太吉伝』259頁

「九水は従来電力の卸売を専門とする会社であったが、博軌との合併に依つて小売も始めることとなった。……〔中略〕電灯と同時に動力も亦、直接福博地方に供給することとなったが、之に依つて工業地としての福博の将来を自分は想像することが出来る。北九州が一大工業地帯として、無限の将来を有する事が愈々瞭かになった。支那に臨み、印度に近く、原料の輸入から観ても、最も有力な地の利を得てゐるものは北九州である。各種の工業は、益々此の地域に発展すべく、福岡はその中心都市として、重要な役割を担ふものである。」

### 史料4 安川敬一郎発大正3年10月15日付麻生太吉宛書簡

一斯くまで市長を御断り致すに不拘、議員たるを拒まざるのみカ市民之交渉を不待懸意を洩し前後矛盾するにあらずやとの轍問も可生候、同しく市之平和を基礎とする以上は■之内撰ぶ処なかるべきにとの轍問当然来るべしと■、貴下の素論たる名誉市長なればさほどの煩累はなかるべきにとの御意見もあるべくれ共、御堂ニ安置せる木仏と同様寺僧の読経に一任する訳ニハ不相成、成程毎朝の読経は夫にても然らんガ、堂塔迦羅の建立とカ寺院の大基礎を傍観し能ハざるハ勿論なり、斯る際に臨み小生は所謂檀徒として大に可尽は覚悟の前なる、寺僧として全責任を有するの地位に立つ事能ハざるハ事情の許さざる処あり、人或はそのハあまりに力の入れ過しなり、縦令大事に臨みても、知事之為め等却されたりとて、誰カ尤めんや杯の説もあらんカ、なれ共それは到底小子の安じ得る所にあらず、然りならば何故議員なれば諾すべきやとの反問も起らん、成程議員なる根本的職責から論すれば、小さき市と国家との懸隔ありとはいへ、個ハ議論にして一般の議員にして本文の職責

を■して、ある者幾人かある故に市として比較的此の蚩笑を來たらさる者なりせば、縦令政治思想に乏しきも敢て更職の譏りならん故に、此見地からして小子の議員に於る意念は僅ニ二期の継続に止り、此間ニ於て適当之政治家を見出し後進には適者ある様ニ被思、福岡市之光輝を發するの期を待つべく、小子ハ縦令議席に上りたりとも一党の下に立つを欲せず、政治上の思想を發揚するの望みもなし、則■責任ありて而も責任なきに等し故に市長たる之懇請を容ざるに不拘、無已ば議員たる事は辞せざるべきを明言致したる次第ニ候

#### 史料5 井手佐三郎の市長就任祝賀宴での麻生太吉の挨拶

当福岡市ハ九洲ニ於テ枢要ノ地位ヲ占メ、交通機關其他ノ設備日進月歩ノ勢ヲ以テ發展致シマシテ、大ニ天下ノ注目ヲ惹キツヽアル次第テ、今後当市ノ施設ニツキマシテハ■無ノ注意ト敏活ノ行動ヲ以益發展セシメラルヽハ、申上ル迄モナキコトト存マス

#### 史料6 麻生太吉日記大正6年9月22日条

「今日ノ如ク工業ノ發展セシ以上ハ、最早福岡県トシテハ大分越ニ鉄道ヲ布設シ、東部ニ連絡シ陸上ノ發展ヲ謀リ、築港ノ隆盛ヲナスハ急務ナリ、中村、山本等ノ諸氏ニ十分株主タルコトヲ希望スル旨」

#### 史料7 「東鉄紛争政治問題化」『大分新聞』大正7年1月31日付

東洋製鉄会社が其工場敷地を選定するが為め予め博多、唐津、伊万里長崎の四候補地を挙げ一年有半に亘り細密なる調査を遂げ此間会社より数回重役並に田崎技師実地調査をなせる外日下部博士其他専門の学者技術家に委嘱して実査する所あり其結果右候補地中長崎、唐津を不適當となし博多、伊万里兩地の内何れかに決定せんとする矢先旧臘に至り突如久原製鉄事業との合併談発生し郷取締役を中心として此交渉は急速に運び本月十五日の重役會議に於て合併を議定し之が為め敷地は久原氏の計画せる福岡県戸畑に決定するに至れるは既報の如し然るに従來敷地の決定を希望して種々画策し居たる博多及伊万里に於ては此突発的決定に対し頗る憤慨し博多に於ては築港問題にも關係する事とて物議甚だしく運動の中心たりし麻生太吉（会社の取締役）松永安左衛門兩氏を始め築港組の中村清七郎〔精七郎〕杉山茂丸氏等は結束して会社態度の不当を叫び……

#### 史料8 「振はざる哉中津」『大分新聞』大正7年2月22、23日付

「中津の致富策としては第一中津をして工業地となすにあり……絹糸紡績は綿糸紡績と異り原綿運送等に多大の手續を要せず原料は其の地方に於て得らるべく、縦令九州地方より移入するとするも数量は原綿に比し著しく軽減し、多くの人を要するも中津は多くの職工を求むるに困難ならず、加ふるに其の要する所の石炭は近傍到る処の炭坑に於て得らるべく旁中津町は工業地区として充分の素質と便利とを有する訳なり  
中津に於て起さんとならば四国、中国、九州各地方より原料を蒐集するに難からず、而も山国川の清流は軟水にして工業用水として優秀なり、斯くの如く中津は何れの点より見るも事業地として他に劣らず、否頗る優位に處る尚ほ近き将来に於て九水は七八万基の動力を起し化学工業を起すに便する考へなれば石灰石を利用して窒素肥料を製造することを得るに至るべし、要するに港湾の設備に欠けたる中津は重疊のものより嵩の小さきものにて

工業を起し、多くの人の出稼ぎを防ぎ其の土地にて働かしむるを肝要とす云々」

史料9 麻生太吉発大正5年7月5日付安川敬一郎宛発信原稿

福岡市ノ件ハ少シク下火ト相成居候へとも、彼等之事故、何時如何ナル手段ヲナスカ難斗、現今ニテハ少数ニテ成立ノ見込無之ト、進藤〔喜平太〕君尽力有之タル結果ニテ、下火ト相成タルモ、水道布設ニ付表面収用法ヲ適用シ、一身ハ進藤、森田〔正路〕ノ両氏中裁的尽力有之、一日モ早く工事ノ着手出来得ル様進行中ニテ、此方法ハ良策ニ奉存候、谷口〔留五郎〕知事ニモ面会、右進行方呉々相願置申候、工事ノ着手ニ至レハ、彼等ノ口実トスル事モ薄ラキ可申候、市債モ出来タルニ付、前市長佐藤〔平太郎〕ヲ再撰シ、水道工事ニ関シ一己ノ利益ヲ得ント計画セシニハアラサルカトノ事モ聞及申候得共、佐藤前市長ハ左迄腐敗ハ致間敷奉存候、彼等カ佐藤ヲ納得セシムル位之胸算ヲナシタルモ■■可有之奉存候、大原〔義剛〕君モ今日ニテハ尽力中ニ有之候趣聞及申候、佐藤前市長辞任当時、老台〔安川敬一郎〕初メ小生〔麻生太吉〕等物好き市政ニ立入申シタル如ク立触レ、甚敷ニ至リテハ演説等致候

表1 福岡市産出の主要工産物

順位	大正元年		大正6年		大正14年	
	品目	産額	品目	産額	品目	産額
1	博多織	742,877	博多織	1,455,109	生木綿	2,919,011
2	鉄製器械器具	425,804	印刷物	771,966	博多織	2,225,922
3	清酒	416,514	鉄器	506,556	菓子	1,763,810
4	醤油	247,012	清酒	501,346	酒	694,107
5	洋服	179,250	醤油	437,397	洋服	649,392
6	バケツ	123,750	製氷	278,000	器械	640,000
7	菓子	119,170	洋服	216,890	醤油	537,135
8	荷車及人力車	114,329	菓子類	206,310	製氷	466,105
9	毛革	113,422	木製品	111,531	鋳物	425,300
10	鍋釜鋤先	81,569	博多人形	110,000	仕立物	298,500

出所：『福岡市勢一斑』、『福岡市大観』

(注1) 産額の単位は円

(注2) 電力、瓦斯を除く

(注3) 大正6年の品目は各細目ごとの合計、それ以外は史料の通り

(注4) 大正14年に生木綿が首位なのは筑紫郡住吉町が大正11年6月に福岡市に合併され、その後同地にあった鐘淵紡績工場の産額が算入されたことによる

玄海環

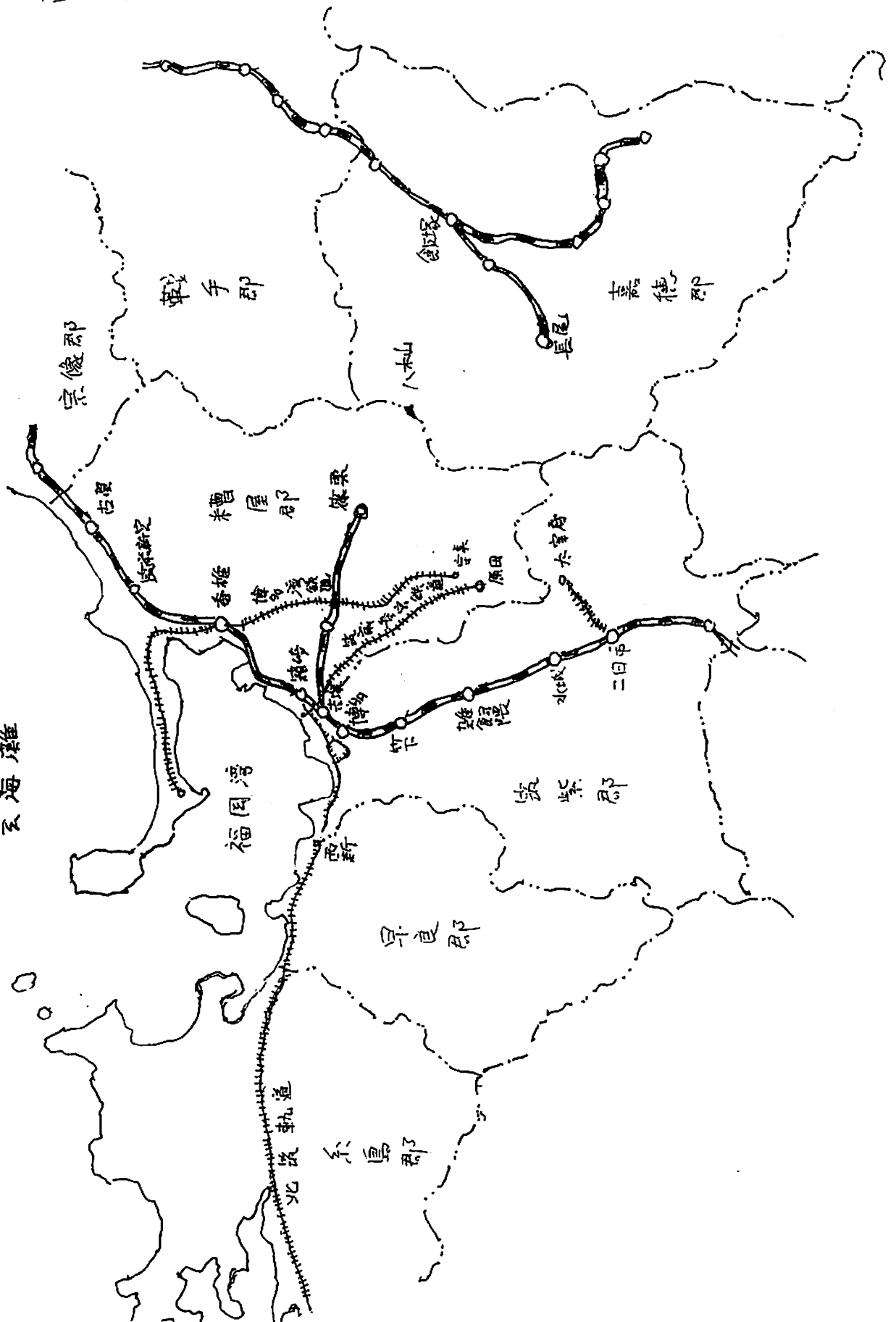




表2 麻生太吉の福岡市域に係わる人的関係

	筑豊鉱業主				福岡人士				財界人	それ以外、備考
	安川 敬一郎	貝島 太助	中野 徳次郎	伊藤伝 右衛門	渡辺 与八郎	太田 清蔵	河内 卯兵衛	松永安 左衛門	和田 豊治	
経済的活動										
船越鉄道（明治29頃）										奥村七郎、野田卯太郎、永江純一 麻生の株式は貝島が出金 後に博多電気軌道として設立か 吉田芳太郎（博多織業者）、団琢磨 小林作五郎（糟屋郡）からも感謝 藤金作（糟屋郡）も積極的に運動 藤金作（糟屋郡）も積極的に運動
西海鉄道（明治39頃）										
博多瓦斯（明治39）		○		○						
博多電車倉庫（明治43）					○					
織物業会社（大正3）	○									
筑前参宮鉄道（大正5）						○	○			
東洋製鉄（大正5）								○		
大分鉄道（大正6）				○				○		
博多国技館（大正11）							○			
博多陶磁器（大正11）	○									
政治的活動										
福岡市長更迭（大正3）	○		○		○*		○		○	○* = 渡辺綱三郎（与八郎弟）
福岡市長排撃（大正5）	○		○				○			
安川敬一郎出馬（大正6）	○		○				○	○		野田卯太郎、団琢磨ほか
社会的活動（寄付）										
宮崎宮神苑会（大正2, 3）	○									葦津耕次郎より勧誘、筑豊鉱業主 県内有力者213名により発起  久保太郎（麻生炭取り扱い石炭商） よりの勧誘 井手佐三郎（福岡市長）から感謝 棚橋琢之助（九水専務）の母校、田 沼稲次郎の来福 安川と協議の上寄付決定  緒方道平・進藤喜平太・久保太郎  井手佐三郎を始め有力者が幹部、東 洋製鉄の福岡香椎誘致の支援関連 麻生太吉は立憲政友会会員  君島八郎  久世庸夫福岡市長などから依頼さ れる 聖福寺住職仙厓和尚 ○* = 松本健次郎と協議 麻生太賀吉（太吉孫）が在校  旭憲吉（九大教授）  佐藤慶太郎（元筑豊鉱業主） 小林作五郎、中野昇と連名で寄付
故平野国臣先生顕彰会（大正3）										
殉難志士五十年祭（大正3）										
福岡市協賛会（大正4）										
専修大学校友会福岡支部（大正4）										
貝原益軒銅像建設費（大正5）	○									
聖福寺山門修築（大正6）	○									
福岡市立商業学校内教養会（大正6）										
福博地方発展期成会（大正7）								○		
立憲政友会福岡県支部建築費（大正7）										
聖福寺河岸石垣工事（大正8）	○									
控訴院福岡移転期成同盟会（大正10）										
仙厓会（大正12）										
香椎宮（大正13）	○*			○						
福岡中学校後援会（大正14～昭和2）										
九州帝国大学仏教育会（大正15）										
住吉神社（昭和4）										
福岡農士学校（昭和5）										
宇美八幡宮（昭和8）				○*						
福岡市献納飛行機（昭和8）										

出所：麻生家文書

（注）船越鉄道・西海鉄道・織物業社・大分鉄道は未成立に終わっている

表3 博多湾築港および大分鉄道の発起人

名前	備考	発起人		大分鉄道出 資額(円)	博多湾築港 での地位	麻生太吉との関係
		博多湾	大分			
中島徳松	筑豊地方で炭鉱経営		○	5,000		
中村精七郎	船舶業, 筑豊地方で炭鉱経営		○	5,000	取締役社長	
中村定三郎	銅勝興業経営者		○	1,000	専務・支配人	
太田清蔵	福岡貯蓄銀行頭取, 元博多商業会 議所会頭		○	1,000		筑前参宮鉄道, 安川敬一郎福岡市選 挙区立候補関連(政友会)
北崎久之丞	渡辺家総代, 紙与合名支配人		○	1,000		渡辺綱三郎(九水監査役, 政友会)
麻生太吉	貴族院議員, 筑豊地方で炭鉱経営		○	1,000		
中野徳次郎	精屋部, 筑豊地方で炭鉱経営		○	1,000		筑豊鉱業主, 福岡市長辞職問題, 九 水での企業者活動(政友会)
深見平次郎	福岡市内で元老的立場	○	○	200	相談役	九水地下線後援会
古賀壮兵衛	福岡市会議員, 銅山経営者	○	○	200	取締役	(博多同志会)
野村久一郎	呉服商, 筑紫銀行頭取, 香椎海面 埋築取締役	○	○	200	相談役	
河内卯兵衛	綿糸商, 福岡市会議員, 筑前参宮 鉄道専務	○	○	200		筑前参宮鉄道, 安川敬一郎福岡市選 挙区立候補関連(政友会)
下沢善右衛門	小間物商, 福岡市内で元老的立場	○	○	200		九水地下線後援会, 明治前期に麻生 炭を取り扱う
佐藤平太郎	前福岡市長, 博多株式取引所理事		○	200		大正3年市長更迭問題
松永安左衛門	衆議院議員, 九州電灯鉄道常務取 締役		○	200		九州水力電気と九州電灯鉄道との合 併交渉, 九州産業
藤金作	元衆議院議員, 精屋部在住		○	200		東洋製鉄の誘致運動(政友会)
川上浩二郎	工学博士		○	200	顧問	東洋製鉄香椎立地に関し測量
村山崎太郎			○	200		
鶴田多門	九州工務所経営	○	○		常務取締役	筑後川導水測量
遠藤甚蔵	福岡市内で元老的立場	○	○		取締役	九水地下線後援会
太田太兵衛	福岡市会議員・同副議長	○				(博多同志会)
山崎清五郎			○			
井上良助	福岡市会議員		○			九水地下線後援会(政友会)
伊藤伝右衛門	筑豊地方で炭鉱経営		○			筑豊鉱業主, 九州産業(政友会)
赤間嘉之吉	大正鉱業, 伊藤商店支配人		○			嘉穂郡民, 伊藤伝右衛門(政友会)
堀三太郎	筑豊地方で炭鉱経営		○			筑豊鉱業主(政友会)
坂本生成			○		監査役	
安川敬一郎	筑豊地方で炭鉱経営					筑豊鉱業主, 福岡市全股
貝島栄四郎	筑豊地方で炭鉱経営					筑豊鉱業主
貝島嘉蔵	筑豊地方で炭鉱経営					筑豊鉱業主
杉山茂丸	玄洋社	○			相談役	
吉貝甚右衛門		○			相談役	(政友会)
深沢伊三郎	福岡市内で元老的立場	○			取締役	
進藤喜平太	玄洋社, 元衆議院議員, 九州日報 社	○				福岡市政刷新会関連
葦津耕次郎	宮崎宮神苑会	○			相談役	宮崎宮神苑会に筑豊石炭鉱業組合と して寄付
谷彦一	元博多電灯軌道取締役	○				
奥村七郎	博多商業会議所会頭, 元衆議院議 員	○				安川敬一郎福岡市選挙区立候補関連
太田大次郎	福岡市会議員, 太田清蔵弟	○				安川敬一郎福岡市選挙区立候補関連
大野仁平		○				九水地下線後援会

出所：藤金作発大正6年10月29日付麻生太吉宛書簡(あ-21-9)、喜多恵「大分鉄道の経営計画についての一考察」『福岡大学大学院論集』第19巻第1号、坂本敏彦編「資料博多湾築港史」、麻生太吉日記編纂委員会編『麻生太吉日記』第1・第2巻

(注1) 発起人の大分とは大分鉄道, 博多湾とは博多湾築港の略称

(注2) 安川敬一郎, 貝島栄四郎, 貝島嘉蔵は大分鉄道の設立に賛成の上株式の所有を承諾